

学校評価表

本年度の重点目標	国家社会の進展に寄与できる実践力に富んだ有徳な人物の育成を目指して、おおらかな徳操、高い知性、健全なる身体、勤労の精神、実行の勇気を涵養し鍛錬する。
本校の目指す教育	<ol style="list-style-type: none"> 1 充実した授業を通して、確かな学力の伸長を図る。 2 生徒の特性を生かす指導に努め、進路実現に意欲的に取り組む態度を育てる。 3 自律的な生活態度を育てるとともに、他者と協働する能力を養う。 4 対外的な広報活動を積極的に起こない、本校の良さをPRする。

		自己評価					学校関係者評価	
番号	評価項目	年度当初の状況			年度末の最終評価（3月）		実施日：令和5年7月5日	
		現状・課題	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	達成度	今後の課題と改善策	学校関係者からの評価等
1	授業	「わかりやすい授業」「生徒が参加する授業」を実践し、確かな学力（知識や技能に加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付ける資質や能力等）を養成していく。	生徒の実態に応じて学習内容を精選し、より効果的な学習方法を模索・実践していく。 授業の中心である「指示」「発問」を簡潔におこなう。また生徒の発言を引き出す授業を展開する。	各教員が生徒の学力向上のための工夫をすることができたか。 公開授業での保護者アンケートの感想等はどうであったか。また授業互見期間等を有効に活用できたか。	アクティブラーニング型の授業が実践されるようになった。 保護者アンケートでは授業は概ね好評であった。授業互見期間の参画状況は例年並みであった。	B	生徒たちの学びが主体的・協働的なものとなるような授業を一層工夫・実践する。 研究授業等の機会を増やし、授業改善に取り組んでいく。	Chromebookを使う機会が一昨年より増えた。パソコンなどの使用に苦手意識を持つ生徒も少なくなかったが、授業や連絡・課題提出等で何度も使ううちに不安が緩和された。 ICT端末は、使わないと一から覚え直さないといけなくなるので、使用頻度をより増やすよう努めてほしい。
		入学時に購入させたChromebookの効果的な活用をおおして、情報収集し、判断する力を養うとともに、そうした力を育てることが可能なスキルを教員が身に付けていく。	リモート授業日を設け、Chromebookの活用方法についてメンテナンス及びブラッシュアップを図る。 教員・生徒にアンケートを実施する。 教員のChromebook活用力向上のための研修会等を実施する。	リモート授業日を設けられたか。また各々の教員がChromebookを円滑に使うことができたか。 生徒の満足度はどのくらいか。また授業内でChromebookを使う教員が増えたか。 Chromebook研修会を実施できたか。また発表者のスキルを共有できたか。	学期毎にリモート授業日を設け、全生徒と全教員がChromebookを使う機会を作ることができ生徒へのアンケートによると満足度4（良）が最も多かった。 Chromebook研修会を実施し、利用方法を学ぶことができた。	B	通常の対面授業に近い形でリモート授業が行えるように取り組んでいく。 通常授業の中でアクティブラーニングを活用するなどChromebookの効果的な使い方について、共通実践を進めていく。	深谷市内の中学校ではiPadを使っているのが高校でChromebookを使うとなると戸惑うかもしれない。 難関校への合格者を出し、部活動も活発化している。この調子で頑張ってもらいたい。
		漢字検定や英語検定の受検を推進し、合格を目指すことで、主体的に学習に取り組む態度を養う。	検定の過去問等を週末課題として配布し、週末も家庭学習をする習慣を培う。	週末ごとに欠かさず課題を出すことができたか。また出している課題を生徒はきちんと提出したか。	級ごとに課題を出すなど丁寧に対応したことで、多くの生徒が課題をきちんと提出することができた。英語検定準1級に4名合格した。	A	漢字検定や英語検定に意欲的に取り組む指導に努め、上位級の合格生徒を増やしていく。	サッカー部はもちろん、パワーリフティング部も力をつけるなど、部活動も盛り上がっている。 進学実績等も大事だが、一人一人を大切に育て、個性を伸ばす、といった人間性を高められるこの学校の環境を今後も大事にしてほしい。
2	進路指導	各コースの目標や生徒の特性をふまえて、3年間を見通した体系的な進路指導をおこなうことで、生徒の希望進路実現をサポートする。	進路行事の流れや目的をしっかりと生徒に把握させ、進路意識を高める。 進路に関する情報を的確に収集し、教員間で共有できるようにする。	進路行事の意義を理解させ、また自らの特性や社会との関わり方を踏まえて進路について考えさせることができたか。 教員間で情報交換を図り、進路指導を適切におこなうことができたか。	進路行事を定期的に企画しながら、大学等の情報を的確に収集することができた。また入試の型に応じて指導を進め、希望進路の実現を後押しできた。	A	大学進学を希望する生徒が減少しつつある。生徒の学習意欲・進路意識の向上を図るため、進路指導の内容充実・工夫を進めていく。	先生方の面倒見がよいのがこの学校の長所。今後もこの長所を伸ばしてほしい。
		一般選抜で受験する生徒をバックアップし、実力を養成するとともに、最後まであきらめないようきめ細かい進路相談を実施する。	進学センター講習を充実させるとともに、個別指導も並行しておこない、難関大学突破に向け、サポートしていく。	進学センター講習に生徒は積極的に参加したか。 模擬試験や検定の結果は伸びているか。	難関と言われる私立大学に合格する生徒が増えるなど、進学に向けて意欲的に学習に取り組む生徒が多かった。	A	進学センター講習をより充実させ、様々な受験型に対応可能にすることで、生徒が積極的に参加できるようにしていく。	産学連携を進められると良いのではないかと。深谷青年会議所主催の企画に本校調理部が参加したようだが、そうしたことを積極的に行えと良い。様々な専門家との交流は生徒の職業意識の涵養につながる。タイアップできる組織等があればぜひ連携してほしい。
		学習時間や教科の偏り等を意識させ、生徒自身で学習状況等を把握・改善できるようにする。	スコラ手帳を活用し、「時間を意識する」「考える」「書く」「振り返る」を習慣化する。	生徒は毎日、学習の記録を記入することができたか。また学習習慣や方法の改善に努めたか。	日々の振り返りを通して、自己の状況を的確に把握することができた。	A	スコラ手帳は次年度以降も継続的に活用し、学習方法の改善等に役立てていく。	SDG'sについての意識や考え方が今の若い子は身につけているように思う。ただ学ぶだけでなく、その学びが行動につながるよう、SDG'sの奥にある考え方そのものに触れられるよう助力してほしい。
		生徒が自分に最適と考えられる進路希望を見だし、その実現に向け努力するよう、指導する。	総合的な探究の時間を中心に、自己理解や社会への認識を深める中で、自分に最適と考えられる進路希望を見出すことができるように、継続的に指導していく。	高校1年生は自己理解や社会のテーマ等を踏まえて自己の進路について考え、文理選択をおこなうことができたか。 高校2年生は第一志望届作成に向け、オープンキャンパス等に参加したり関心ある上級学校を調べるなど、積極的に活動できたか。	社会のテーマや上級学校等について調べ、スライド等にまとめることで認識が包括的になった。 担任等の添削を受けながら真剣に第一志望届を作成し、自身の進路の考えを深めることができた。	B	進路について考え、調べたことを包括的に理解・把握できるようにする。また進路学習だけでなく、様々な社会の諸問題や企業の活動に目を向けた探究活動も積極的に取り入れていく。	SDG'sについての意識や考え方が今の若い子は身につけているように思う。ただ学ぶだけでなく、その学びが行動につながるよう、SDG'sの奥にある考え方そのものに触れられるよう助力してほしい。
3	生徒指導等	整容指導については継続的に実施されており、大方の生徒はきちんとしているが、徹底できているとは言えない状況である。	服装頭髪指導を毎月実施するとともに、登下校時の整容指導等をふだんから丁寧におこなっていく。	個々の生徒に応じた指導をおこなうと同時に、全教員で指導方針を共有し、その方針のもとに指導することができたか。	日常指導については指導方針を確認しながら、全教員で協力して指導にあたるよう努力した。	B	指導のあり方について、生徒会や生徒の意見等も踏まえ、自律的・自覚的な行動を促す試みも行う。	広報活動はしているとは思いますが、生徒数が減っていることが気になる。数が減ると活動に制限がかかることもあるので、一人でも多く入学するよう、この学校の良さをしっかりアピールしてほしい。
		SNSの使用法・マナーについては、今後とも継続的に指導していく必要がある。	スマホ・ケータイ安全教室を実施し、安易なSNSへの書き込みがどのような事態を招くか理解させる。	SNSの使用マナーを向上させられたか。またトラブルに対し、迅速に対応できたか。	表立ったトラブルはなく、マナーについての注意喚起がある程度浸透したと思われる。	A	使用時間も含め、SNSの使用について継続的に指導していく。	生徒会からの要望（服装規定の変更や自動販売機の導入等）に対してすぐに対応するなど、生徒たちの意見を生かしながら学校が運営されているように思う。
		新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐための対策に万全を期すとともに、生徒が安心して登校できる環境をつくっていく。	感染症対策に留意しつつ学校行事の実施方法を工夫する。 健康チェックや保健委員会による昼休みの呼びかけ等を継続しておこなう。	学校行事を実施できたか。感染症対策に万全を期すことができたか。 多くの生徒が健康チェックを日々おこなうことができたか。	適切に感染症対策をおこないつつ、学校行事を「コロナ前」の形に近づけることができた。健康チェックも継続しておこなった。	A	感染症対策に配慮して生徒の健康を守りつつ学校行事等の教育活動を一層活性化させ、生徒がより充実した学校生活を送れるよう保障していきたい。	